

かずやしんぶん

12号



2025. 8

尾野一矢さんについて

一矢さんは1973年3月26日座間市生まれで、51歳です。彼には重度の知的障害と自閉症があります。愛情あふれる両親と姉と一緒に暮らしていましたが、共働きの両親が世話を続けるのが難しくなり、中学1年生のときに障害児向けの施設に入所しました。そして成人してからは23歳のときに相模原市緑区の県立障害者施設「津久井やまゆり園」に入所しましたが、2016年7月26日、障害者19人が刺殺、職員2人を含む計26人が重軽傷を負わされる「相模原障害者施設殺傷事件」が起きました。犯人はこの施設の元職員で「障害者はいなくなればよい」と主張するなど、障害のある人を差別・排除する考えをあらわにしました。一矢さんも首や腹などに重傷を負いながらも何とか一命は取り留め、徐々に回復に向かいました。両親は重度の障害がある人が暮らす場所は施設以外にはなく、このまま施設での暮らしがずっと続くものと思っていました。しかし、重度の知的障害のある人が支援を受けながら地域のアパートで一人暮らしをする取り組みがある事を、映画「道草」(宍戸大裕監督)やNPO法人「自立生活企画」(東京都西東京市)との出会いにより知りました。集団生活を送る施設ではどうしても一矢さんのペースで生活することは難しく、もっと自由な生活をさせてあげたいという思いが両親の背中を押しました。そこで2018年8月から地域生活を見据えて、自立生活企画の介護者が週1回施設に出向き、家族と一緒に昼食を共にしながら一矢さんとの信頼関係を築いて行きました。そして2年後の2020年8月、故郷の座間市でようやくアパート生活を始めることができました。

施設での生活が計35年ほどに及ぶ一矢さんにとっては戸惑うことばかりの日々かもしれませぬ。それは、私たち介護者も同じです。ともに悩み、そして楽しみながら手探りの日々を送っています。そんな一矢さんですが、いたって普通のおじさんです(笑)。ポテトサラダ、ハンバーグ、納豆、たくあん、板チョコ、缶コーヒーや「一本橋」という手遊びが大好きです。もし一矢さんが「一本橋」と言って手を差し出してきたら、それは「友だちになりたい」というあなたへの親愛の証です。ぜひ相手になってください(介護者が遊び方をお伝えします)。一矢さんは平日の日中は作業所で活動していますが、わが家である「かずやんち」(一矢さんはこう表現します)でのまったりとした時間が何よりも大好きです。一矢さんはその時の気分で、部屋で大声を出してしまうこともあります。この生活を大変気に入っています。私たちはそんな一矢さんをこれからも支え、共に生き、一矢さんの友だちの輪を広げたいと思っています。何かとご迷惑をお掛けしてしまうかもしれませんが、どうか温かく見守っていただければありがたいです。



事件から9年目の 2025年7月26日
今年も津久井やまゆり園に献花に伺いました。



地域でのアパート暮らしも今年で5年、追悼の献花に訪れるのも3年目になりました。以前は園に近づくだけでも不穏になっていましたが、今年もしっかり祈りと献花を捧げる事が出来ました。



今回はアーティストの工藤春香さん、木村英子参議院議員の政策秘書の蒔田備憲さんと社会学者の深田耕一郎さんが同行してくれました。

自分の暮らしの中心は「かずやんち」(座間市のアパート)にあるのだという確たる自信がついたからか、決して近寄ることの無かった園舎にも自ら中に入り、皆さんとの再会や交流をしていました。エ藤春香さんと園舎ロビーにて



永井園長と、一年ぶりの再会、
暖かく迎えて頂き
ありがとうございました。

神奈川県障害者施策審議会
障害当事者部会の委員の
猿渡達明さんと久しぶりの
再会





天畠大輔参議院議員と...お互いに言葉は少ないけど、深いコミュニケーションが交わされていました。

「こんな夜更けにバナナかよ」の渡辺一史さんと、二年ぶりの再会



最近県内の大学に入学し、重度訪問介護制度を使って一人暮らしを始めた佐野夢果さんと初対面。



様々な出会いや再会。「事件を決して風化させない」との思いを新たに皆さんと確かめ合いました。これからも頑張っていきますのでよろしくお願いいたします。



神奈川新聞成田記者、朝日新聞森本記者と

れいわ新選組木村英子議員のお招きで、れいわ新選組政策研究集会に登壇させていただきました。



2025.5.30 れいわ新選組政策研究集会に登壇させていただきました。事件当時の混乱や一矢さんの地域移行の経緯、障害者運動の歴史から重度訪問介護制度、今後の地域移行、地域自立生活

の課題などお話をさせていただきました。

天畠大輔議員も駆けつけてくれました。「あかさたな話法」を見させて頂いていると、国会のような実務的なスピード感が先走って行く中であって、議員やスタッフの皆さんが、聞く姿勢=沈黙の内に虚心に集中して行く=を、心得ていらっしゃる姿がとても印象的でした。



それは命と直接向き合う、効率性を外した時間が流れていく貴重な瞬間で



す。これは体感でしかわからないので、今のマスメディアを通しては中々伝わって来ない部分ですが、でも、そこには何かを大きく変えて行く可能性があるといます。

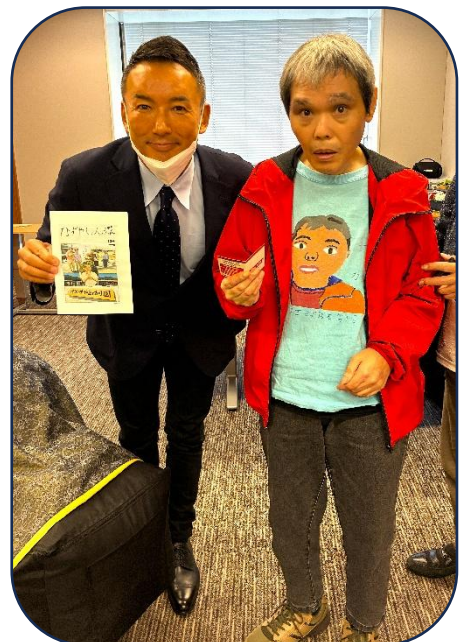
皆さんの関心の高さや質疑応答、勉強熱心な姿にはとても心打たれました。





そこで一矢さんも「一本橋こちょこちょ」で応える、とても充実した会になりました。

皆さん温かくお迎えいただき本当にありがとうございました。感謝感謝です。



国会議事堂案内もしていただきました。新たに設置されたスロープや車椅子用スペースも案内して頂きました。





人間らしい「健康で文化的な生活」を送ることを願い、脱施設から地域移行へと続く障害当事者運動の方々の血の滲むような命懸けの努力で勝ち取られてきた介護保障要求運動の歴史

そして地域での暮らしが可能であるにもかかわらず未だ施設での生活を余儀なくされているたくさんの方々の声なき声が国政の場にもしっかり届き響いていけるように願うばかりです。



「私たちのことを私たち抜きに決めないで(Nothing About us without us)」を合言葉に世界中の障害のある人たちが参加し作成された「障害者権利条約」。批准国である日本に対し国連の権利委員会による初めての審査がスイスのジュネーブで2022年8月22日から2日間行われました。権利委員会は「(やまゆり園)事件を経て、このような施設で暮らす人達が沢山いる事について考え直した事はあるんでしょうか」と指摘。「障害のない人と平等に施設から地域社会で自立した生活へ移行することを目指し期限付きの数値目標、人材、技術、資金を伴う法的枠組みや国家戦略、その実施のための都道府県の義務付けを開始すること」を求めました。にもかかわらず国による地域移行の現状は年々減速しており、いまでもおよそ約13万人が施設で暮らしています。次回の審査は2028年、早急にヘルパーの育成など地域の体制づくりを進め「脱施設化」に向けた動きを実行していく事が求められています。



発行 かずやさんとその仲間たち

〒252-0005

神奈川県座間市さがみ野3丁目2-19-101

メール kazuya.ono811@gmail.com

Facebook “尾野一矢日記”

<https://www.facebook.com/onokazuyanikki>

ホームページ

“よってけ一矢んち” <http://ono-kazuya.com/>

発行日 2025年8月



“尾野一矢日記”



“よってけ一矢んち”